



飛行機雲は、どうしてできるの

飛行機から出る水蒸気

飛行機雲が見られるようになったのは、飛行機がジェット機の時代になって、高い空を飛ぶようになってからです。60年くらい前までは、それほど高い空を飛ぶ飛行機がなかったもので、飛行機雲は見られませんでした。

飛行機雲ができる場所は、地上からの高さが、6000メートル以上のところです。このあたりは、気温がかなり低く、飛行機のエンジンから出る水蒸気などが、まわりの空気に冷やされて、ほとんどが、小さな氷のつぶになっています。

空気のうちと水蒸気

高い空にできた小さな氷のつぶを、地上から見ると、飛行機が飛んでいる後ろに、細長くつながった、白い雲に見えるのです。

飛行機が空気のうち高い空を飛ぶとき、その後ろに、小さな空気のうちまきができます。このうちまきができると、その部分の空気の圧力が低くなります。すると、まわりの空気の温度を急に下げて、雲をつくることがあります。

飛行機雲ができる理由は、飛行機から出る水蒸気と、飛行機の後ろにできるうちまきの2つが考えられています。（監修・村山 貢司）

